

# 時空の漂泊

(一〇〇五年十月七日 第二十号)

高橋 滋

## 広島便り8——建具の製作

広島は、六月はほとんど雨が降らないかった。六月だけでなく小屋の製作をはじめた三月から雨で土日の外仕事ができなかつたのはたつたの三日しかなかつた。今年前半は、作業をするには非常に天候に恵まれた。

くつろいで、これから先の工程に思いを巡らせた。



梅雨といふのは六月頃、日本の周囲

の高気圧が拮抗し、その前線が停滞するためには長雨のことを言うのだが、今年の梅雨は「降れば土砂降り」という変わつたタイプだつた。

雨に悩まされたのは七月に入つてからだつた。七月二日に床の二回目の塗装を終えたが、その日は朝から強い雨だつた。しかし、仕上げておかないと次へ進めないので、強い雨の中を無理して作業場に行つた。

前線の動きが活発で、一気に北上したり、南下したりした。前線が移動する真下の地域は記録的な集中豪雨となり、それ以外の地域は梅雨の時期だというのに雨がまったく降らず快晴の日々が続き、水源が枯渇するという気象だつた。

外壁には木材を使うことは決めており、四方を山に囲まれた小瀬川畔の閑寂な「岩倉温泉」(廿日市市津田)に立ち寄り、一日の作業の汗を流し、材を使うことにした。

単純弱放射能冷鉱泉  
神経痛、関節痛、痛風、高血圧症、慢性消化器病、慢性婦人病など

日帰り入浴  
午前 9時30分~午後9時まで  
大人 430円 小学生 200円  
3才以上 100円

しかし、「外壁用」と謳う木材は建  
材屋には置かれておらず、カタログを  
見て取り寄せるしかなかつた。しかも、  
取り寄せても建設地まで運んでもら  
う段取りが必要になる。ともかく厄介  
である。さらに、その板を縦に使うか、  
横に使うかも決めかねていた。

ところが、温泉に入つていたら、全  
体の姿が見えてきて、これで行こうと  
思いが定まつた。心身ともにさっぱり  
して後半戦を迎えることになつた。

ログハウス用の特殊な窓を作つて  
国内メーカーもあるが、趣味の世界の  
商品のようで触手が伸びない。それで  
自分で作ろうと決めたのである。

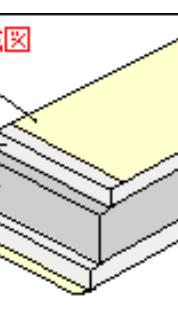
ところで、外壁工事は、通常、構造  
材の上にアスファルトフェルトなど  
の防水紙を貼り、サッシや換気扇など  
を取り付け、本体との境目を防水テー  
プで防水し、その後、サイディングと  
いう塗装系（セラミック）ないし金属  
製の外壁を取り付けるという手順で  
行われる。

余談だが、建材屋で、もうブリキ（錫  
板）はありません、と笑われた。

## 窓工事

窓は自作することにした。アメリカ  
には木造窓の専業者が数多くあり、  
様々なものが流通している。日本にも  
輸入され、大手サッショメーカーの製

品ラインナップに加わっているが、が  
つちりと大きく重く、手作りの小屋に  
はどうもしつくりしない。



メッキ鋼板

はありません、  
と笑われた。

最初は、まず入口や窓の外枠を作り、  
早めに外壁作業に入ることを予定し  
ていた。七月末まで外観を完成する。  
それから、ゆっくりと建具を考えて製  
作するという段取りにしていた。建具

にはかなりの時間が掛かると想定し  
たからだ。

しかし、本体枠組の建設途中で、窓は外枠と可動部分（障子）が一体であり、外枠だけを先行して製作するのは難しいと気がついた。スライド式ならレール部分の加工がいるし、開き方式ならば、ヒンジの受け部分の削りこみなどをしておかなければならない。

そんなことが分かったもので、ロフトに上がる梯子を作った後、改めて窓について検討することにした。

窓の開き方やロックの考え方を定め、市内で金具を探しては、現場で確認する。何度も市内と現場を往復し、ようやく金具を決め、窓の基本を決め、それを基に外枠をどうするかを決めることができた。

窓は、バスの窓のような押上げ型にして、窓外枠の下框<sup>したかまち</sup>を五度傾け、排水させる構造にした。

## 入口工事

入口も大きな仕事である。小屋の計画段階で、もつとも時間を使つたのは、入口構造の検討だつたと思う。

「フロア面にレールのような障害がない構造」をあれこれと考えて、結構局「外付け・上吊りタイプの引き戸」に行きついた。

開口部はできるだけ大きくし、フロア面が外へ向かつて面<sup>つらいち</sup>一で広がる形式を構想した。埃<sup>ほこり</sup>の出る木工作業を外（ウッドデッキ）でやれるように、またウッドデッキでの食事などのアウトドア活動が室内にスムーズにつながるようにという考え方からである。

以前、タキイの「園芸新知識」で紹介されていたL字型の小屋の平面形状も頭にあつた。開口部を通して、内と外が一体につながるという考えである。

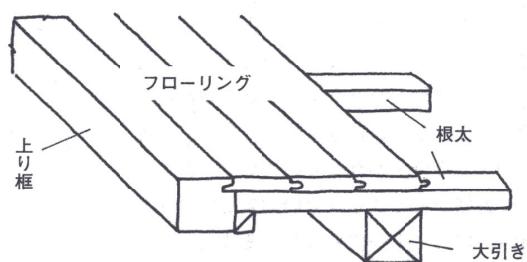
外壁面にアルミニウムのレールを取り付け、引き戸を吊り下げる。「雨仕舞い」<sup>じま</sup>は不完全になるが、引き戸はスペースの活用という点で優れており、水はいざれにしても完全には防げないと覚悟して、この方式に決めた。

「雨仕舞い」は入口につながるウッドデッキを工夫することによつて障害を少なくすることにした。

幸い、インターネット上の検索で、「外付け・上吊りタイプの引き戸」用の戸車とレールを見付けることができた。アトムリビングテックという会社の製品で、親切に相談に応じてくれ、部品図も手に入り、それを基に入口の設計を完了することができた。

やや細かい話だが、ウッドデッキから室内に入る床面を面一に平らに（掃き出し式にするのは思いのほか面倒だつた。入口の下枠「上がり框」<sup>しゃたわく</sup><sub>あかもち</sub>四と床面を一体で工作する必要がある。

四 玄関や勝手口などの上がり口に取り付ける横木、あるいは化粧材のこと。



まず「上がり框」の部分には「SPF」では頼りないので、ここは「レッドシーダー」(red cedar) とし、床張り前に本体枠組に組み込まなければならなかつた。

外枠の加工・取り付け、入口の框の残り部分の加工を行い、必要な塗装も行い、その上で防水紙を貼つて、見た目にも変化が出てきたのは、八月も中旬であつた。

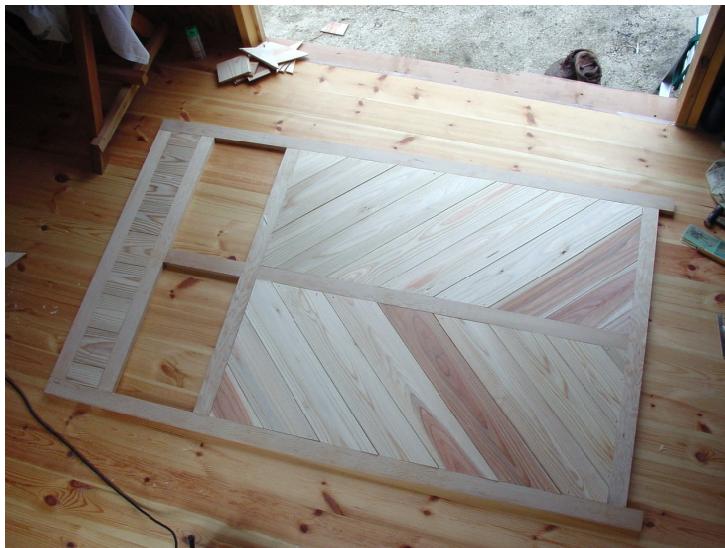


窓枠はシリコン・コーキング<sup>七</sup>

五 亜寒帯針葉樹林に生育するスプルース (Spruce: ヒゾ松)、パイン (Pine: 松)、ファー (Fir: モミ) の総称。いずれも成長が早く安価で、主にツバメイフォー住宅の構造材として使用されている。木、米杉、カナダ杉とも言われる。伸縮性が少なく、割れや反りが生じにくい耐久性の優れた木材。

六 コーキング (caulking) …窓枠の周囲、部材の接ぎ目などの小さいすき間にパテ状の充填材を詰めるこ<sup>七</sup>と。また、その充填材。

## 建具の製作



そして、いよいよ建具の製作に入つた。大物は「外付け・上吊りタイプの引き戸」である。作業を始めたら、デザイン要素にも気を配らなくてはならず、本当に手間取つた。

は、当初の図面とはかなり違うものになってしまった。バランスというものは、どんなものでもなかなか難しいと

いうことを改めて思い知らされた。

ところで、改めて言う必要がないのだが、建具は家具の範疇に入る。そ

して家具の範疇になると、要求される工作精度はまったく違つてくる。

本体の枠組みでは〇・五ミリの誤差が許容範囲である。それでも窓の外枠を製作した時には、小屋本体との隙間

置（高さ）にしても、図面は書いたのだが、実際に材料（戸枠の厚さと幅）、構造、ガラスのはめ方（納め方）を検討し、モデルを作り壁に立て掛け、そ

の具合を眺めて最終的に固めたものが、当初の図面とはかなり違うものになってしまった。バランスといふものは、カンナ一削り（二〇～三〇ミクロン）である。寸法やデザインに加えて、

建具の製作には、こうした精度への引っ掛かりがあつて時間を費やした。

## 出窓工事

さらに急遽、「出窓」に変更するという寄り道も加わつた。「構造はできるだけ簡単に」が当初の基本方針だった。片流れにしたのも「屋根の仕事が楽」という狙いがあつたからだ。

ところが、途中で「出窓」に変更したくなつた。床を張り終えて、一番大きな窓に手を置いて外を眺めた時、突然、「ここに出窓が欲しい」と思った。南向きで、冬は一等地になる場所だ。ここに温室のような窓があれば、冬も楽しめるはずだと思つた。

しかし、「出窓」は「天窓」に負けず劣らず家を傷める。十年ほど住んだ住宅公団の中層住宅でも、「出窓」の痛みが問題になつた。露結が半端ではなく、接合部が腐った。



「出窓」を設けると決め、久しぶりに C A D を使つて部材設計を行つた。

設計し、必要なパ

ツに分解

したら、何

と、その部

品点数は

小屋本体

の壁の一

いいたのが、それでも「出窓」がある家が、私の潜在的な願望であり、夢だったのだと思う。そして「問題が起きても、それも経験の一つ。後で出窓を付

けるより、最初から付ける方が楽だろう」と割り切り、「出窓」にすることに踏み切つてしまつた。

形が見えてくると、どうしても手直しをしたくなることが少なくない。私が長年、関わってきた自動車の世界もそうだつた。



屋本 小

面に匹敵するこ<sup>こ</sup>とがわかつた。

体は、直線の加工で長さも同じ物が多いが、「出窓」は側面と屋根の両方に角度がついていて、加工も組み立ても本体の壁の一面よりも苦労したよう

に思う。

（ちなみに、椅子の足や土俵の柱が垂直ではなくて外側に開く場合を「四方転び」といつて、断面の墨付け、加工

（ちなみに、椅子の足や土俵の柱が垂直ではなくて外側に開く場合を「四方転び」といつて、断面の墨付け、加工

## 家は大きな家具

建築家の本を読んでいて、家は大きな家具であるという表現を何度も目にしていました。

建具を作っていると、時間を忘れてしまうことが度々だつた。部材が多く加工も複雑で、集中力を失うとミスをする。勢い、時間を忘れるほど作業に集中してしまうのである。

メートルが記録された。

電気の引き込み工事の都合で八月末に外壁の一部に手をつけたが、台風が気になつて、それよりも窓ガラスの

はめ込みを先行させることにした。

ちなみに、すでに何度か触れている吉村順三氏<sup>八</sup>が戦後日本で個人住宅の設計を始めた頃は、相応しい家具が見当たらず、結局、家具も自分自身で設計し、メーカーや職人に製作させたことがあつたらしい。

作業場の気温は広島市内より二、三度低い上に、林間からの風が爽やかである。それでも三十二度を越えるとさすがに汗が噴き出してくる。

八月も雨はほとんど降らず、晴天続

きの中、汗を噴き出しながら時間を忘れ、休む日もなく作業を行つた。何とか大きな家具を際限ない時間を掛けて作つているような気がしてきた。

幸い、それまでは台風の洗礼を受けなかつたが、九月に入ると本当に危なくなる。昨年、広島は五回も台風に襲われた。九月初めに西日本を直撃した台風十八号では、広島市内で風速六十

として氣が付いたら夏が過ぎていった。セミの合唱がいつの間にか虫の声に変わつていた。

八一九〇八年一九九七年。建築家。東京生れ。  
東京美術学校卒。東京芸大教授。合理を基調に  
賞作。が多いたるに、軽井沢の奈良国立博物館の設計で芸術院賞受賞。  
日本趣味の素朴な作風で、木造住宅にも佳作。



九月四

日に初め  
てガラス  
が入つた。

その二  
日後、台風

十四号が山陰沖を通過した。風は弱かつたが、短時間に三五〇ミリもの雨が降つた。

私が小屋を建てている廿日市市佐伯地域では、川が氾濫し、六戸の家屋が流された。道路は何カ所も通行止めになつた。

翌日、水浸しになつた小屋を想像し、

仕事を早めに終え、迂回路を通つて様子を見に出かけた。幸運にも建設途中の小屋は無事だつた。雨が吹き込んだ程度で、道具類も濡れていなかつた。

天窓の仮の覆いが飛ばされないで済んだのは幸いだつた。

